

# 令和6年 春の墨田区交通安全運動 実施計画

墨田区	1
警視庁本所・向島警察署	9
東京消防庁本所・向島消防署	12
国土交通省東京国道事務所	13
東京都第五建設事務所	14
東京都交通局江東自動車営業所	15
京成バス株式会社奥戸営業所	16
東日本旅客鉄道株式会社錦糸町営業統括センター	17
東武鉄道株式会社とうきょうスカイツリー駅	18
京成電鉄株式会社押上駅	19



墨田区交通安全対策協議会

実 施 事 項	内 容
1 会議の開催	<p>(1) 3月14日(木)に墨田区交通安全対策協議会幹事会を開催し、令和6年春の墨田区交通安全運動実施要領、同実施計画を審議する。</p> <p>(2) 3月18日(月)に墨田区交通安全対策協議会を開催し、令和6年春の墨田区交通安全運動実施要領、同実施計画を審議、決定する。</p>
2 広報活動	<p>(1) 町会・自治会、保育園、幼稚園、小・中学校、区の施設等に対して交通安全運動ポスターを配付し運動を周知する。</p> <p>(2) 区役所庁舎に「交通安全運動実施中」の懸垂幕を掲出するほか、区広報車、青色防犯パトロールカーにより街頭宣伝活動を実施する。</p> <p>(3) 墨田区ホームページ、区報、ケーブルTV等を活用した広報活動を実施する。</p>
3 交通安全意識の普及啓発	<p>(1) 区立小学校4年生を対象に交通安全教室を実施し、参加者へ反射材付き広角リストバンドを配付する。</p> <p>(2) 東京都及び警察署と連携して自転車の利用者に対して、自転車安全利用についての啓発活動を行う。</p> <p>(3) 警察署及び鉄道事業者と連携し、駅周辺放置自転車追放キャンペーンを実施する。</p> <p>(4) 自転車乗車時のヘルメット着用・自転車の損害賠償保険加入の啓発活動を行う。</p>
4 交通安全施設等の点検及び整備	<p>(1) 標識の損傷の有無及び汚れ状況の確認</p> <p>(2) ガードレールの損傷の有無及び汚れ状況の確認</p> <p>(3) 反射鏡の損傷の有無及び汚れ状況の確認</p> <p>(4) 交差点付近の視距を遮る物の有無</p> <p>(5) (1)～(4)を点検後、必要により整備を行う。</p> <p>墨田区管内 4月8日(月)～4月15日(月)</p>
5 道路損傷箇所の点検及び補修	<p>危険箇所の点検と危険防止の措置</p> <p>(1) 道路のパトロール・点検(歩道の落込・陥没、縁石・側溝・柵蓋等の破損)</p> <p>(2) (1)の点検後、損傷箇所の補修を行う。</p> <p>墨田区管内 4月8日(月)～4月15日(月)</p>
6 道路損傷箇所の点検及び補修指導	<p>沿道工事及び建築工事等に伴う道路損傷について点検を強化し、適正施工を点検</p> <p>墨田区管内 4月8日(月)～4月15日(月)</p>

実 施 事 項	内 容
7 道路占用工事現場の点検及び指導監督	占用工事現場の埋戻し、覆工等の適正施工について指導を強化する。 墨田区管内 4月9日（火）
8 道路不正使用の是正指導及び違法掲出広告物の除去	(1) 道路上における商品置場・足場・自動販売機等の適正使用を指導する。 (2) 道路上に不法掲出されている看板を除去し、道路の美化及び交通の安全を図る。 道路不正使用の是正取締 4月10日（水） 墨田区南部地域
9 職員に対する啓発・周知	区職員に対して、文書により交通安全運動の周知と交通安全マナーの普及を図る。

実 施 事 項	内 容
1 墨田区のお知らせ による啓発	墨田区のお知らせ「すみだ」4月1日号に、春の交通安全運動の記事を2面または3面に掲載する予定である。
2 ケーブルTVの区 政情報提供番組等 による啓発	区民への交通安全意識の啓発を、ケーブルTVの区政情報提供番組の「区からのお知らせ」としてキャスターから情報提供を行う予定である。 放送週 : 4月第1週（4月1日～4月6日） 再放送週 : 4月第2週（4月7日～4月13日）

実 施 事 項	内 容
交通安全教室の実施コミュニティ会館3館	<p>来館者、学童クラブ利用者等に対して、交通安全教室等啓発の機会を設ける。</p> <p>(1) 梅若橋コミュニティ会館</p> <p>ア 日 時 5月上旬</p> <p>イ 内 容 交通安全に関するクイズ</p> <p>ウ 対 象 幼児親子・小学生</p> <p>(2) 東駒形コミュニティ会館</p> <p>ア 日 時 4月中旬</p> <p>イ 内 容 交通安全教育ビデオの視聴</p> <p>ウ 対 象 小学生低学年</p> <p>(3) 横川コミュニティ会館</p> <p>ア 日 時 4月3日(水)</p> <p>イ 内 容 本所警察署による交通安全教室</p> <p>ウ 対 象 小学生低学年</p>

実 施 事 項	内 容
<p>1 交通安全教育の啓発 推進</p> <p>2 老人クラブとの協働 による地域の高齢者の 交通安全の啓発</p>	<p>(1) すみだふれあいセンター福祉作業所</p> <p>ア 朝礼時及び終業時に交通安全運動の趣旨や、通所に際しての注意すべき交通ルールを、利用者に呼びかける。</p> <p>イ 各保護者に対して通所時の事故防止について協力を呼びかける。</p> <p>(2) すみだ障害者就労支援総合センター</p> <p>就労移行支援施設の利用者へ、事業等実施委託業者を通じて交通安全運動の実施を周知するとともに、交通に関して注意する事項や守るべきルール等を利用者と再確認する。</p> <p>(3) 高齢運転者に対する周知活動</p> <p>運転免許証自主返納及び運転経歴証明書申請の手続きの案内チラシを窓口に設置し、高齢運転者に制度等の周知を行う。</p> <p>墨田区老人クラブ連合会や各老人クラブに対して、加齢等に伴う身体機能の変化が交通行動に及ぼす影響などを啓発するとともに、運転免許証の自主返納を呼びかけ、高齢運転者の交通事故防止を図る。</p>

実 施 事 項	内 容
<p>1 交通安全運動と交通安全教室            (区立認定こども園 2 園及び区立保育園 2 4 園)</p>	<p>(1) 保育園から園児の保護者へ配付する「保育園だより」に交通安全運動の趣旨を掲載し、本運動の普及・啓発を図る。            ※ 対 象 2 6 園 約 2, 4 5 0 世帯</p> <p>(2) 保育園の園庭、ホール、交通公園等を利用した交通安全教室を実施し、園児の交通安全に対する知識の普及、実践に努める。            ※ 対 象 2 5 園 3・4・5 歳児 約 1, 5 5 0 名            (拠点方式と単独園方式で実施)</p> <p>(3) 保育園の散歩方法について、警察署へ園児及び職員に対する指導を要請する。</p>
<p>2 交通安全運動の P R            (区立児童館 1 1 館)</p>	<p>(1) 児童館から、利用者及び区民(町会、学校等)へ配布している「児童館の行事のお知らせ」に、交通安全の標語、運動の趣旨について掲載する。</p> <p>(2) 児童館の掲示板にポスターを掲示する。</p> <p>(3) 来館者、学童クラブ利用児童に対して、交通安全に関するビデオ上映会を実施する。</p> <p>(4) 館内放送で利用者に交通安全を呼びかける。</p> <p>(5) 学童クラブ利用児童に「交通安全のお話し」をする。</p>

実 施 事 項	内 容
1 情報配信	すみだ安全安心メールにおいて、交通安全を呼びかける情報を配信する。
2 パトロール	<p>青色防犯パトロールカーによる警戒を強化する。</p> <p>当該車については、毎日2台が区内を巡回(時間帯：1台は午前9時～午後5時、他の1台は午後5時～午前2時)し、防犯や交通安全の見守り活動等を実施している。交通安全運動期間中においては、車搭載スピーカーによる交通安全啓発を行うとともに、下校時の児童・生徒の通学路の安全確認に一層配慮する。</p>
3 関係機関との連携	<p>警察署等との連携を図る。</p> <p>青色防犯パトロールカーは毎日警察署（本所署・向島署）と、交通安全に係る最新情報等を共有した上で、巡回パトロールを実施する。</p>
4 「墨田区歩きスマホによる事故等の防止対策の推進に関する条例」	<p>警察署等との連携による条例周知</p> <p>「墨田区歩きスマホによる事故等の防止対策の推進に関する条例」について「令和6年春の墨田区交通安全運動」の場を通じて、警察署等と連携して区民等へ条例の周知・啓発を実施する。</p>



実 施 事 項	内 容
1 広報活動の推進	<p>会議の開催</p> <p>校長会等において、交通安全運動の推進について周知徹底を図る。</p>
2 交通安全教育・指導 推進	<p>(1) 交通安全指導員の派遣（通年事業）</p> <p>幼稚園及び小・中学校で行う交通安全教室（自転車教室含む）に交通安全指導員を派遣し、交通安全教育の充実を図る。</p> <p>(2) 見守り活動の強化</p> <p>下校時のパトロールを行い、見守り活動を強化するとともに、適宜指導を行うことで、児童・生徒の意識啓発を図る。</p>
3 各学校実施事項	<p>(1) 交通安全講話 朝礼等集会時における全校児童・生徒を対象とした指導</p> <p>(2) 学級での指導 学級単位の指導</p> <p>(3) 交通安全教室 警察署・交通安全指導員等による指導</p> <p>(4) 通学路の安全点検</p> <p>(5) 登下校時の指導・パトロール等見守り活動の強化</p> <p>(6) ポスター・標語の作成、掲出・校内放送によるPR等意識啓発</p>
4 その他	<p>「子ども学校安全ボランティア」の募集（通年事業）</p> <p>登下校時の児童の安全への取組みを更に充実するため、登下校時のパトロールや見守り活動、あいさつ運動等について、保護者を含めた多くの区民の協力を得るため、学校単位でボランティアを募集している。</p> <p>区公式ホームページ等も活用し、ボランティア募集について周知を図る。</p>

実 施 事 項	内 容
1 広報啓発活動及び交通安全教育	<p>(1) 警察施設、各町会、事務所、横断歩道等に「全国交通安全運動実施中」の懸垂幕、立て看板等を掲出して交通安全運動の普及・浸透を図る。</p> <p>(2) テレビ、新聞、ラジオ、SNS、自治他愛の広報誌（紙）、街頭や店舗に設置するデジタルサイネージ等、あらゆる情報メディアを活用し、交通安全啓発動画を放映するなど、区民の心に響く広報啓発活動を推進する。</p> <p>(3) 運転者に対して、法令上、横断歩道に歩行者がいないことが明らかな場合を除き、直前で停止可能な速度で進行する義務と、横断歩道における歩行者優先義務があることの認識を徹底するとともに、歩行者の側方を通過する場合には歩行者との間に安全な感覚を保ち、または徐行するなどの「思いやり・ゆずり合い」の気持ちを持った運転を実践するよう広報啓発活動を推進する。</p> <p>(4) 歩行中又は自転車乗車中に信号無視や禁止場所横断等の交通違反を伴う高齢者のほか、身体機能の低下等により交通上の危険が認められる交通安全ヒヤリ高齢者（以下「ヒヤリ高齢者」という）を発券した場合は、「交通案千指導カード」を交付してタイムリーな指導警告を行う。</p> <p>(5) 警察署交通課に高齢運転者相談窓口を設置して、高齢運転者やその家族の相談に対し、高齢運転者の加齢に伴う身体機能の変化を踏まえた安全運転の継続に必要な助言・指導を行い、必要がある場合は運転免許証自主返納制度や自主返納後の生活支援の周知を図るとともに、地域包括支援センター等の行政窓口についても教示する。</p> <p>(6) 薄暮時間帯や夜間帯の交通事故抑止のため、「トワイライト・オン運動」を推進するとともに、路上寝込み等を早期に発見するための走行用前照灯使用（対向車や歩行者がいない状況におけるハイビームの使用）についての広報啓発活動を推進する。</p> <p>また、歩行者及び自転車利用者に対して、反射材用品やLEDライト等の着用を促進する。</p> <p>(7) 自転車乗車中の信号無視や一時停止違反など、危険性・迷惑性が高い行為の防止に関する広報啓発を行い、区民の交通安全意識を高める。</p> <p>(8) 飲酒運転は全ての車両（電動キックボードや自転車も含む）が対象であることを周知徹底するため、交通安全情報を活用するなど広報啓発活動を推進する。</p> <p>(9) 自転車利用者に対しては、自転車は車両との認識を持たせるとともに、「自転車安全利用五則」を始めとする様々な交通ルールを順守させる広報啓発活動を推進する。</p> <p>(10) 交通安全教育においては、自転車の交通事故のうち約4割が出合い頭事故であり、その主な原因である信号無視と一時不停止が重大交通事故に発展しやすいことを理解させるとともに、自転車利用者に対して「赤信号は止まる」「一時停止場所では必ず止まる」という2つの「とまる」をキーワードとした交通ルールの焦点を絞った重点的な広報啓発活動等を推進する。</p> <p>(11) 自転車利用者のヘルメット着用推進については、自転車乗車中の死者の約6割強が頭部損傷が原因になっていること、ヘルメット未着用時の致死率が着用</p>

実 施 事 項	内 容
2 関係機関・団体等との連携の強化	<p>時と比べて約2.7倍も高いことを周知しながら、あらゆる機会を通じて広報啓発活動を推進する。</p> <p>(12) 自転車を利用する宅配業者やデリバリーサービスを活用して営業している飲食店等に対しては、交通安全に関する情報発信を行うなど、交通安全の取り組みへの協力を依頼するとともに、昼間帯や夕食時など自転車配達員が多く活動する時間帯に絞った街頭指導を実施する。</p> <p>(13) 電動キックボード等の交通違反は、信号無視と通行区分違反が約9割を占めることから、このような違反実態を捉え、交通ルールの遵守についてウェブサイト、SNSなどの各種媒体を活用した情報発信を行うとともに、販売事業者、シェアリング事業者、関係機関・団体と連携した広報啓発を推進する。</p> <p>また、違反者の約7割が10歳代、20歳代であることから、大学等において新入生に対する安全教室を実施するなど、若年層に対する効果的な広報啓発を推進する。</p> <p>(14) 電動キックボード等のうち、特定小型原動機付自転車に該当するものは、ヘルメットの着用が努力義務であることから、頭部保護の重要性とヘルメット着用による被害軽減効果を強調した広報啓発を行うなどし、運転者のヘルメット着用を推進する。</p> <p>(15) 電動キックボード等に係る飲酒運転、信号無視等の悪質・危険な違反行為のほか、通行区分違反、横断歩行者妨害等の歩行者に危険を及ぼすおそれの高い違反行為に重点を置いた取締りを強化するとともに、利用者の多い時間帯における取締りや夜間における繁華街での検問等を推進する。</p> <p>(16) 特定小型原動機付自転車の販売事業者等は、購入者に対し、交通安全教育の行う義務が課せられていることから、事業者等による交通安全教育が適切に行われるよう指導助言を行う。</p> <p>(17) ペダル付原動機付自転車はペダルを漕いで走行したとしても原動機付自転車等に該当することについて、販売店及び購入者への周知を図る。</p> <p>(18) 二輪車利用者に対して、ヘルメットのごひもの確実な結着や胸部プロテクターの着用等の安全装備の必要性を啓発する。</p> <p>(19) 二輪車利用者の情報交換の場となっている二輪車販売店等に対し、二輪車の事故情勢や交通安全情報等を提供して、来店する二輪車利用者への安全運転の呼びかけを依頼し、さらに警察や二輪車団体等が開催する初心者や運転に不慣れな利用者に向けた二輪車実技教室の紹介を依頼するなど、広報啓発活動を推進する。</p> <p>(1) 自治体、学校、交通安全協会、町内会、自治会、自動車運送事業者、鉄道事業者、交通ボランティア等との連携を許可するとともに、これまで運動に参加したことのない企業・団体等に対しても参加、協力を要請するなど、運動の拡大を図る。</p> <p>(2) スクールゾーンにおいて交通ボランティア等の協力を得る際には、歩行中の年齢別死傷者数の最も多い7歳児童等を含む子供の交通事故防止を図るため</p>

施 事 項	内 容
	<p>「違反させない環境づくり」に向けた活動を促進する。</p> <p>(3) 児童の安全を確保する「通学路安全運転呼びかけ隊」等の結成に向けた働き掛けのほか、各種モデル企業等の拡大など、既存の交通安全組織の活性化を推進する。</p> <p>(4) 東京交通少年団 BAGS (バッグス) の活動活性化と認知度の向上を図るほか、チラシの配布や小学校における交通安全教育の機会等を活用した同団への加入促進を図る。</p> <p>(5) 若い世代の交通安全意識の向上を図るため、学校関係者及び会社経営者等への働きかけにより、中学生、高校生、大学生、若手社会人等の交通ボランティア活動への参加を促進する。</p> <p>(6) 飲酒運転や路上横臥 (飲酒酩酊等による路上寝込み) による重大交通事故の発生を防止するため、管内企業や関係団体等に対する広報啓発の協力を依頼する。</p>

実 施 事 項	内 容
1 広報活動の推進	<p>(1) 消防署及び出張所に立看板・ポスターを掲出し、交通安全意識の高揚を図る。</p> <p>(2) 都民指導への機会を活用することで、本運動の重点を周知徹底し、広報・啓発活動を推進する。</p>
2 安全教育の推進	<p>(1) 基本に忠実な操作技能の指導育成を実施する。</p> <p>(2) ドライブレコーダーによる交差点の通過要領等における振り返り訓練を実施し、乗車員全員の安全運行へ対する意識の高揚を図る。</p> <p>(3) 「緊急走行時の交通事故防止の10則」の確認を実施し、緊急走行時における交通事故防止を図る。</p> <p>(4) 管内交通危険箇所における現地確認の徹底を図る。</p> <p>(5) 車両諸元性能を確実に把握させ安全運行の徹底を図る。</p>
3 安全運転管理	<p>(1) 消防車両等の点検整備の徹底を図り、安全運行管理を推進する。</p> <p>(2) 車両運行前には必ず車両周囲を一巡し、乗車員全員が安全確認を実施後に運行することを周知徹底する。</p> <p>(3) 災害出場及び車両出向時には、運転者及び同乗車員全員によるコメントリードライブに努め、事故の未然防止を図る。</p> <p>(4) 業務遂行時に自転車を利用する場合は、ヘルメット等の着用及び法令を順守させるとともに、車両運行時において、自転車等に対する事故防止の徹底を図る。</p> <p>(5) 交差点通過時における通過要領及び危険箇所等の把握に努め、安全運転に対しての意識を高める。</p> <p>(6) 労務管理（疲労軽減）のため、救急自動車運転者の交替乗車を推進する。</p> <p>(7) 危険予測を行い、未就学児等の急な飛び出し等に対しての事前対応を図る。</p>

実 施 事 項	内 容
1 交通安全施設等の点検と整備	<p>(1) 歩行者、自転車利用者の視点から、歩道や立体横断施設等を総合的に点検し、必要な措置を講じる。</p> <p>(2) 車両の交通事故を防止するために、防護柵、視線誘導標、道路照明、道路標識等の交通安全施設を総合的に点検し、必要な措置を講じる。</p>
2 道路の適正な利用の徹底	<p>(1) 道路、特に歩道上の看板、商品及び自転車の放置等について、道路パトロールを実施し、道路の適正な利用の徹底を図る。</p> <p>(2) 道路上、または道路に接した場所における建設工事に起因する交通事故防止を図るため、道路パトロールを強化し、必要な措置を講じる。</p>
3 交通安全意識の高揚	<p>ポスター、チラシ、道路情報板等により、道路利用者等に交通安全意識の高揚を図る。</p>

実 施 事 項	内 容
1 交通安全施設等の点検整備	<p>(1) 歩行者、自転車利用者、特に子ども、高齢者及び障害者の交通の安全を確保するため、利用者の立場に立って交通安全施設等を総合的に点検し、必要な措置を講ずる。</p> <p>点検項目 ー 誘導用ブロック及びシート、歩道の段差や勾配、街きよ、縁石類、路面の状況、区画線、道路照明、歩道橋、街路樹など</p> <p>(2) 車両の交通事故を防止するため、見通しの悪い道路における交通安全施設等を点検し、必要な措置を講ずる。</p> <p>点検項目 ー 防護柵、道路標識、道路反射鏡、視線誘導標、障害物表示灯など</p>
2 道路使用の適正化	<p>道路、特に歩道上の看板、商品等による不法占用物件の撤去等については是正指導を行うとともに、道路交通の障害になっている放置自転車等に対し、地元関係者の協力及び関係機関との連携を図り、道路パトロールを強化すること等により、道路の不適正な利用の是正を図る。</p>

実 施 事 項	内 容
1 会議の開催	<p>(1) 交通局全体会議 交通局自動車部が主催する安全対策会議及び運行管理者会議に出席し、全国交通安全運動の主旨や実施事項について確認する。</p> <p>(2) 営業所会議 所長を総括責任者とする「事故防止委員会」を開催し、交通安全運動推進体制を確立し、本運動の主旨徹底及び実施事項について検討する。</p>
2 重点項目	<p>(1) こどもを始めとする歩行者の安全確保</p> <p>(2) 横断歩行者事故等の防止と安全運転意識の向上</p> <p>(3) 二輪車、自転車、電動キックボードとの交通事故防止</p>
3 主な取組事項	<p>(1) 新入学・新学期シーズンを迎え、幼児・児童が、新たに通園・通学といった交通行動に参加することから、こどもの行動特性を周知し安全確保に配慮させる。</p> <p>(2) 高齢者の行動特性を周知し、高齢者を見かけたら徐行や十分な間隔を保持するなど「思いやり」を持った運転を実践し、高齢歩行者との事故を防止する。 ①横断歩道歩行時、また自転車乗車時の急な飛び出しに注意する。 ②歩行速度、距離感を読み、ゆとりのある運転操作を心掛ける。</p> <p>(3) 横断歩道において周囲の状況に応じて一時停止または徐行するなど、歩行者の優先を徹底する。</p> <p>(4) 重大事故につながりやすい二輪車、自転車、電動キックボードとの接触事故防止の徹底を図る。 ①歩道から車道への飛び出しを予測する。 ②見通しの悪い交差点や曲がり角での一時停止・徐行を心掛ける。 ③側方間隔を十分に取り、無理な追い越しをしないなど、防衛運転に努めるとともに、大型バスに対する恐怖心に配慮した運転を心掛ける。</p>
4 車両の安全確保	<p>(1) 日常点検整備及び定期点検整備の確実な実施、特にホイールボルト折損による車輪脱落事故や車両火災事故、車体腐食による操舵不能事故等の防止のため、点検整備を徹底する。</p> <p>(2) 車両トラブル発生時の適切な対応方法の周知徹底を図る。</p> <p>(3) 自動車の使用状況に応じた点検整備を整備管理者のもと確実に行う。</p>
5 運動主旨の徹底	<p>(1) あらゆる手段を講じて全職員に本運動の主旨の徹底を図り、事故防止意識の向上に努める。</p> <p>(2) 交通安全運動実施中を示す「立て看板」等を庁舎内外に掲出する。</p> <p>(3) 全職員は期間中「全国交通安全運動実施中」の黄色リボンを着用する。</p>
6 街頭指導等の実施	<p>期間中、管理監督者による早朝点呼立会い及び主要バスターミナルにおいて街頭指導を実施する。</p>



実 施 事 項	内 容
1 会議の開催	(1) 毎月開催している営業所長会議及び次長会議の中で、春の交通安全運動の主旨及び実施細目等の説明を実施。また各営業所については、職員会議を開催し、運行管理者・内勤者に対して主旨説明を実施。
2 重点項目	(1) 子供と高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止 (2) 自転車安全利用の推進 (3) 飲酒運転の根絶（当社独自） (4) 交差点通過時の確実な安全確認の徹底（当社独自）
3 実施項目	(1) 子供とその保護者及び高齢者の交通安全意識の向上を図る為、啓蒙活動の実施と交通弱者に対する保護意識の熟成を図る。 (2) 自転車安全利用五則の徹底 (3) アルコールが与える影響の周知 (4) 交差点右左折時の実践要領の実施
4 実施細目	(1) 子供と高齢者の行動特性を把握し、危険を先読みした予測運転の実施。また公共交通従事者としての自覚をもって5つのあげる運動（止まってあげる、譲ってあげる、待ってあげる、避けてあげる、導いてあげる）の実践。 (2) 自転車通勤者やプライベートも含めた自転車利用時の法令順守を、警視庁の「自転車は車のなかま」等のリーフレットを活用し、自転車安全利用五則を徹底する。またバス運転時には、自転車三原則の実践（自転車をやり過ごす・間隔をあける・目を離さない）により事故防止に努める。 (3) 飲酒がもたらす体へのリスクや、アルコールー単位の分解時間を周知する。また飲酒運転による悲惨な事故事例を集合教育にて再周知し、アルコールについて意識を高めていく。 (4) 交差点右左折時の実践要領「左折時は一旦止まり、徐行で通過。右折時は交差点中央で一旦止まり、ショートカットにならないように角度をつけて徐行で通過する」を徹底するとともに、ヒヤリハット映像集を活用し情報共有にも努めていく。
5 社内行事	(1) 経営トップによる出先施設及び各ターミナル巡視の実施 (2) 本社及び営業所による日常点検査察・早朝点呼査察の実施 (3) 本社及び営業所による主要交差点での安全活動の実施 ※墨田区押上駅前交差点に於いて安全活動を実施 (4) 無線を活用した「交通安全運動実施中」についての啓蒙活動を実施

実 施 事 項	内 容
1 広報活動の推進	ポスター掲出のほか、構内放送や発車標の活用により本運動を周知する。
2 社員への啓発	<p>点呼等を活用し、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を周知するとともに、交通事故を防止する対策に取り組んでいく。</p> <p>(1) 酒気帯び・薬物使用運転禁止、運転免許証携帯、横断歩道手前での減速等、交通ルールの遵守と交通マナーの実践</p> <p>(2) シートベルト（後部座席含む）の正しい着用</p> <p>(3) 夕暮れ時における車両ライトの早め点灯の徹底</p> <p>(4) ヘルメット着用等、自転車の交通ルール・マナーの実践</p>
3 お客さまの事故防止	<p>お客さまの転落、触車による死傷事故防止に向けて取り組む。</p> <p>(1) 構内巡回やホーム出場の際は早め出場を励行し、お客さまの転落、触車による死傷事故防止に努める。</p> <p>(2) 放送で歩きスマホおよび駆け込み乗車禁止の注意喚起を実施する。</p> <p>(3) ポスターの掲出を行なう。（「線路内の落し物は駅社員が対応」「歩きスマホによる人との衝突や線路内転落」「黄色い点字ブロックの内側を歩こう」等）</p> <p>(4) 配慮が必要なお客さまやお困りのお客さま等への接客的な声かけや見守りを実施する。</p> <p>(5) 通路の段差や傾斜及び勾配の点検整備</p> <p>(6) 誘導ブロックの点検整備</p>
4 その他の取り組み	千葉支社の指示文書に基づき実施する。

実 施 事 項	内 容
1 会議の開催	管理者会議を開催し、実施計画を検討する。
2 交通安全意識の高揚	<p>(1) 交通安全運動実施要領を駅報で発行し、掲示板に掲出すると共に引継簿を活用し、社員に対して交通安全運動の主旨を周知徹底する。</p> <p>(2) 社員に対して点呼等で交通安全意識の高揚を図る。</p> <p>(3) 交通安全運動期間中に駅構内に立看板を掲出し、旅客に交通安全運動期間中であることを周知する。</p> <p>(4) 弊社作成の冊子を沿線関係警察署に配付し、踏切巡回やパトロールについての助言及び指導を頂き、事故防止の強化に取り組む。</p>
3 踏切道安全通行の啓発	交通ルールについてのPRを踏切道で行うとともに、自転車・電動キックボード等利用者に対してヘルメット着用の交通指導を行う。
4 踏切道環境の整備	<p>踏切道保安設備、標識等の点検整備を行う。</p> <p>※整備済みの設備</p> <p>防犯カメラの設置、踏切の歩車道を別色で塗装</p>
5 旅客負傷事故防止	<p>(1) 列車の進入及び進出時は旅客の状況に注意して、転落、触車等による負傷事故の防止に努める。</p> <p>(2) 旅客の駆け込み乗車に注意して負傷事故の防止に努める。</p> <p>(3) 酔客の行動に注意し、ホームでは状況によって酔客をホーム中程に誘導して事故防止に努める。</p>
6 線路内立入りと歩行の取締り	<p>構内巡回の際は、電車留置線内に公衆の立入りがいないかどうか注意する。</p> <p>※現在、防犯カメラについては、とうきょうスカイツリー駅周辺高架化工事に伴い、工事期間中は一時撤去している。</p>
7 放送案内の強化	駅構内の放送設備や旅客用案内表示器を活用し、事故防止と交通安全運動のPRを行う。
8 職員の自家用車等による事故防止	交通ルールの遵守と防衛運転の励行を駅報及び点呼等で周知する。

実 施 事 項	内 容
1 交通安全に対する意識高揚	<p>(1) 点呼時において墨田区交通安全運動の趣旨徹底を図るため、運輸部報及び交通法規の遵守を徹底する。</p> <p>(2) 各マニュアルを再確認し、不安全箇所の発見に努める。</p>
2 踏切事故防止	<p>(1) 全踏切道を点検し、不良箇所の補修及び改善に努める。</p> <p>(2) 踏切道の巡回に努め、不安全行動者に対し、注意を促す。</p> <p>(3) 踏切道に啓発看板を掲げ、利用者に注意喚起を図る。</p> <p>(4) 押上第1号踏切道にて、交通ルールの啓発活動を実施し、置石及び投石防止の注意喚起を図る。</p>
3 旅客負傷事故の防止	<p>(1) 列車に旅客の乗車が完了してから車掌に閉扉合図を送り、扉挟み事故防止に努める。</p> <p>(2) 触車事故、軌道転落事故、駆け込み乗車を防止するため、啓発放送を実施するほか、案内表示スクロールで注意喚起を促し、協力を図る。</p> <p>(3) 軌道転落発見時は、列車非常停止装置を動作させ、事故防止に努める。</p>
4 列車事故の防止	<p>(1) 運転取扱いにおける基本動作の徹底、異常時における安全な運転取扱い（連動扱いの手順及びマニュアルの再確認）及び運行管理の徹底</p>
5 広報活動	<p>(1) 駅事務室出入り口等、お客様の見やすい箇所へ「交通安全運動実施中」のポスターを掲出する。</p> <p>(2) 駅、ホーム等に「踏切事故防止」のポスターの掲出</p> <p>(3) 駅及び列車内にて交通安全運動の啓発放送の実施</p> <p>(4) 近隣沿線小学校の新入学生に対し、下書きを配布し、置石、悪戯による列車妨害防止の指導教育を要請する。</p>
6 職員に対する交通ルール厳守	<p>点呼、職場巡回時において、交通従事員であることを再認識させ、交通ルールを遵守するよう周知徹底を図る。</p>
7 その他の取組み	<p>運輸部報の指示文書に基づき実施する。</p>

**墨田区交通安全対策協議会事務局**

**墨田区都市整備部**

**土木管理課交通安全担当**

**〒130-8640 墨田区吾妻橋1-23-20**

**TEL 5608-6203 (直通)**

**FAX 5608-6410**

**e-mail [KOUTSUANZEN@city.sumida.lg.jp](mailto:KOUTSUANZEN@city.sumida.lg.jp)**